

厳木地区青少年育成研究大会で合唱と意見発表☆

12月13日（土）にコミュニティセンターで厳木地区青少協研究大会が開催されました。オープニングでは、中学3年生が「あなたへ」の合唱を披露しました。参加者から溢れんばかりの大きな拍手が起きました。

意見発表では、厳木町で学んでいる小・中・高校生が日頃考えていることや学校の取り組みなどについて発表しました。

立ち見も出るほどの参観者は、子供たちの合唱や意見発表に聞き入りあっという間の2時間を過ごしました。意見発表の発表者と内容は次の通りです。



小学6年生

タイトル「笑い合えることのできる社会へ」



友達を傷つけないために気をつけることとして、「一人ひとりの個性を尊重すること」、「友達への態度に気をつけること」、「困った時は相談すること」の3つをキーワードに発表しました。私たちが日々利用しているインターネット上の問題、特に相手の顔が見えない状況で起こるトラブルについても自分の考えを述べました。そして、相手と向き合い、お互いを尊重することで、誰もが笑顔で安心して暮らせる社会を実現したいと訴えました。

小学6年生

タイトル「今戦争をなくすためにできること」



学校で聞いた平和講話や家族から聞いた戦時中の話や、修学旅行で訪れた長崎の原爆資料館で見聞きしたことから、戦争をなくすために小学生の私たちにもできることを発表しました。その中で「戦争のことをもっと知り、決して忘れないこと」、「戦争の恐ろしさや怖さを伝えて平和のバトンをつなぐこと」を提案しました。そして、これから自分にできることに取り組んでいきたいと訴えました。

中学2年生

タイトル「理解するということ」



みんなの人権を守っていくために一番大切なのは「相手のことを理解すること」であるとはっきり伝えました。スポーツは得意だが勉強や絵は苦手といった、誰もが「一人一人違うところがある」ということについて具体的な話を交えながら提案をしました。さらには、障害を持つ人々への理解という踏み込んだ視点も提示して話をし、聞く人に深く考えるきっかけを与えました。

中学3年生

タイトル「社会を明るくするための運動」



「社会を明るくする運動」について発表しました。自分の努力目標を「みんなが安心して笑顔で暮らせる社会の実現」ととらえ、「自分から笑顔で元気に挨拶をすること」、「誰か困っている人がいたら手を差し伸べること」など具体的な実践したいことを提案しました。そして、明るい社会を作るために「大人になってからではなく、今からでも少しずつできることを続けていく」と元気に主張しました。